令和４年度　高知市立学校　学校評価書

学校名　　高知市立　高知商業高等学校

大項目	自己評価				学校関係評価	
	中項目	小項目（評価指標・具体的な取り組み）	達成状況・改善方策	評価	評価	
1・ビジネスマナーの日常化	⑴皆勤･精勤を増やす指導の徹底と継続	①遅刻減少を目指す指導の展開 ②啓発・顕彰活動の展開 ③精皆勤３年間 60%以上 1･2 年次 80%以上	①「遅刻０日」等に取組んでいるが「遅刻０日」以外の日に問題がある。(生徒)コース長が毎日見回りをし、生徒の状況を把握(社マネ)保健相談班と連携(情マ)遅刻数の集計及び分析を行う(教務)年 3 回以上のノーチャイムデーの実施と数値による分析(特活) ②クラスで表彰(多数) ③1 年次 81%､2 年次 82%､3 年間 47%	B	B	目標は達成できたが、３年生の遅刻や欠席が例年より大幅に増加した。
	⑵教室の環境整備	①教室の棚・荷物の整理 ②汚さないゴミを出さない ③ロッカーをきれいに	①③主副主任で確認(多数)教室環境整備文書を出す(教務)学校環境委員会での美化計画作成(生徒)保健委員会を通じた環境美化の呼びかけ(教育相談) ②ＳＤＧｓを意識した分別の実施(社マネ)月 2 回以上美会員が啓発(３年)	B	B	ゴミの分別についてはゴミ箱を増やす必要がある。
	⑶授業規律スタンダードの徹底と継続	①分離礼への待ち針指導 ②「ベル開始」指導の徹底と継続 ③授業者 1 分前着の徹底と継続	①できてない場合はその都度指導する(1 年)評議委員会を主体とした分離礼の質的向上の取組(特活)評議員に号令のやり直しを実施(多数)オリエンテーションで意義を説明(家庭) ②③よくできている	B	B	分離礼については各クラスでばらつきがある。
	⑷職員室･準備室での指導の徹底と継続	①挨拶指導の徹底と継続 ②服装指導の徹底と継続 ③言葉遣い指導の徹底と継続	①～③年度当初のオリエンテーション等で実施。(各学年団)入室時に指摘し、やり直しの実施(多数)学年補導、生活担当と連携(2 年)生徒玄関でのあいさつ運動の実施(生徒)	B	B	よくできている。
	⑸環境美化･公共物管理指導の徹底と継続	①生徒玄関･駐輪場･トイレ･階段等 ②清掃後の振返指導の継続と発展 ③教室の戸締り・施錠 ④部活動･同好会利用箇所の施錠管理等	①清掃担当区の教員と報連相(１・２年)行事前の大掃除を実施(教務) ②学校環境委員と連携して実施(社マネ) ③徹底できてない。毎日点検を継続 ④部活動顧問による強い指導の実施(スポ科)	C	C	年間を通して教室や部室での戸締りや消灯の管理が不十分であった。
	⑹交通安全指導の徹底と継続	①日常指導の徹底 ②自転車安全運転指導の徹底と継続 ③ヘルメット着用の推進	①月１回朝の交通指導の実施(生徒) ②秋の県内一斉交通安全指導の実施(総務・生徒) ③合格者登校日に生徒と保護者に説明	B	B	ヘルメット着用はなかなか定着しない。
	⑺服装指導の徹底と継続	①計画的・系統的指導の徹底 ②日常指導の徹底 ③「校内」から「校外」へ	①生徒部、生活担当と連携、補導専任の学年会出席(2 年) ②主任・副主任で実施(多数) ③進学・就職事前指導の実施(進路)	B	B	冬の寒さ対策の検討が必要である。
	⑻行事・進路決定後の学習・生活指導	①行事後の学習・生活 ②進路後の学習・生活	①学習・生活面の確認指導の実施(１・３年)朝、主任・副主任と情報共有の実施(生徒)行事後に授業規律の再確認を行う(家庭) ②検定１級取得を目指す(多数)指定校推薦合格者に対する事後指導の実施(進路)３年生に向け、卒業後の進路につながる課題の提示(商業)	B	B	３年生の進路決定後の遅刻、欠席に関しては大幅に増えてしまった。
2・基礎学力の定着	⑴関心意欲態度・提出物・配布資料の管理の徹底	①関心意欲態度・提出物と評価の一体化 ②配布資料管理能力の育成	①オリエンテーションで評価基準について統一指導を行う(多数)生徒用 WORK フォルダー管理と整理をする(情報)授業点、提出物点を数値化して評価する(数学)資料の配信はロイロノートを活用(多数)主体性を提出物や課題で評価(英語)	B	B	ロイロノートを有効に活用できている。

			②専用ファイルで管理(多数)ロイロノート、ZOOM、classroom、Google Workspace 等の活用(情マネ)クラスでの配布物の整理とファイリングの指導(1年･2年)振り返りシートを自己管理させる(体育)				
	⑵義務教育段階での学習内容の定着図る指導	①各科目シラバスの計画的実施 ②小テスト・復習課題などの実施	①②自主勉帳の提出(スポ)スタサポ結果及び問題分析(特進)朝読時に新聞記事の要約、論点を持った記述をさせる(社マネ)模試の成績上位者を進路室前に掲示する(進路)学習事項は漢字での解答(地公)中学の学びを関連させた学び(多数)	B		B	自己評価を尊重する。
	⑶学習行動及び家庭学習を促す指導の徹底	①授業課題の提示 (やってくる生徒を増やす) ②検定合格のための早めの学習計画や課題の提示 ③長期休業中の課題提示 ④３年生への卒業課題の提示 ⑤新入生への課題の提示	①課題の実施及び評価へ反映(多数)学期末面談で確認、啓発(２年) ②教科オリエンテーションで実施(多数) Mブックに詳細を記す(情マネ)検定週間の設定(教務) ③ボランティア活動・エッセイ(社マネ)夢ナビ動画視聴(１年・進路)ホームプロジェクト課題提示(家庭) ④進路に即した課題を提示(情マネ) ⑤「読む」「書く」ことをあわせた課題の実施(社マネ)確認テストの実施(多数)	B		B	自己評価を尊重する。
	⑷全員が全商検定１級を取得する指導	①３種目１級取得１０８名以上 ②卒業時１級取得１００％	①103 名 資格類型は 5 種目以上を目標(情マネ)オリエンテーションで説明(多数)静かな自習場所の提供(図書)１年次合格していない科目は 2･3 年次に再受験させる(商業)授業担当者が取得に向けたプランを提示する(商業) ②238 名 検定週間の実施、未取得者と面談(ライ) オリエンテーションで説明(多数)全商推薦案内・選考会規定を通じて実施(進路) 静かな自習場所の提供(図書)不合格科目については再受験することを授業担当者が指導する(商業)	A		A	検定週間もあり、学校全体として取り組めている。工夫を凝らして指導ができている。
市商マネジメント力の育成	⑴コミュニケーション力を育成する指導	①社会と協働する力 ②チームで働く力 ③グループワーク力 ④討論する力	講演会で聴く態度等の事前指導を実施(1 年)東階段口にて毎日挨拶指導を実施 (2 年) 聞くを中心にした指導(社会)GW・PW を実施し、3 学期も継続(数学)ｹﾞｰﾑ形式でｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力を育成(保体)国公立講座でアウトプット指導を実施(進路)合意形成を図る決議(特活)市商祭で支援の必要な生徒を主任と連携し支援(教育相談)	B		B	様々な行事等の場面で生徒が力を発揮している場面が見られた。
	⑵課題発見･課題解決力を育成する指導	①自主的に学ぶ力 ②調べる力 ③ノートを作る力 ④タイムマネジメント力 ⑤論理的思考力・分析力	3 年課研で高知や社会の課題発見･課題解決に向けて思考させる(ライ)ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｲｸﾙを回す指導(スポ)M-Book に定期試験の点数や弱点の記載を指導し、効果的な活用が見られた(数学)本時目標や振り返り時間の確保(外国語)実習記録をつけ改善点を明確に(家庭)探究ｻｲｸﾙを使ってﾎﾟｽﾀｰｾｯｼｮﾝを３学期も継続(商業)課題の追究を国公立講座で実施(進路)県内企業への企画提案と課題解決に取り組む(特活)教師側が先に決定や解決を促さないように支援(教育相談)	B		B	様々な行事等の場面で生徒が力を発揮している場面が見られた。

	⑶プレゼンテーション力を育成する指導	①発表力・説明力 ②文書力(論述・論理的表現力) ③レポート作成力 ④記録・要約できる力	講演会内容要約を指導(1 年)校外学習や探究学習への取組を実施(地歴公民)タブレット活用して発表(数学・商業)原則原稿を見ない発表(特活)全員が発表できる活動を実施(理科)ルーブリック評価を効果的に活用(外国語)プレゼン時間の確保(家庭) 国公立講座にてアウトプット指導(進路) ビブリオバトル図書委員 3 名参加、事前指導 3 回実施(図書)交流体験活動でプレゼン実施(人権)	B		A	様々な場面で発表できる場面があり、生徒の発言に底力を感じる。
	⑷講義理解力を育成する指導	①メモする力 ②論述する力	講演・LH でMブックを活用(全学年)企業・地域住民との対話時にメモ・質問をする (特活) 講義理解力の授業を実施(地歴公民・数学・家庭・進路)事物事象がなぜそうなるのか、知識を活用して説明する問いの設定(理科)企業訪問で質問・メモをとる習慣が定着(特活)メモの取り方や論述・討論方法について指導(商業)	B		B	広い視野で物事を考える力がついている。
	⑸ＩＣＴ･英語活用力を育成する指導	①日常的な英語活用力・表現力 ②タブレット活用力 ③PC 活用力	修学旅行事前説明会をオンラインと対面で実施(ライ)修学旅行のアポイントと情報発信に活用(社会)タブレットをメモ代わりに活用(情マ)市商祭で活用(1 年)Google は今後の課題(地歴公民)授業資料や単元に関わる情報の共有を図った、図やグラフの説明で活用(理科)実技で模範画像や自分の動きを比較させた(保体)Google フォームの研究(外国語)	B		B	英語についてはもう少し会話力を伸ばす必要がある。
	⑹察する力 (企画力･行動力) を育成する指導	①企画できる力 ②説明できる力 ③行動できる力 ④言われなくてもできる力	校外学習で自ら考える場面を設定(ライ)修学旅行を育成機会として設定(特進・社会)進路 LH で自ら考えて取り組みができるように(進路)講演の司会進行や感想等を生徒たちがしっかり仕切っていた(1 年)自己調整学習につなげた(理科)なぜを考えさせて育成(保体)気づきを評価(家庭)年を通じたプロジェクトで生徒自ら課題を設定し活動できている(特活)	B		B	様々な行事等の場面で生徒が力を発揮している場面が見られた。
	⑺失敗から学ぶ力(創造する･挑戦する) を育成する指導	①創造する力 ②挑戦する力	学校行事等で指導(特進・ライ)行事後、結果と計画を比較できるシートで指導(社会)IT パスポートを個別指導(情マ)志望理由書指導等で実施 (進路) Mブックで定期考査振り返り(1 年)自主的に点数と弱点を記録(数学)なぜ失敗したか考えることで、理解させる指導(保体)	B		B	様々な行事等の場面で生徒が力を発揮している場面が見られた。
	⑻授業改革	①M型・W型・MW・Q型授業の実践	科コース・教科・部活動と連携して指導(特進･スポ)プラン性のある授業を展開(国語)社会とつながる問いがある授業展開を推進(地歴公民)知識が地球上の原理原則や人間生活におけるつながりを指導(理科) 4 技能 5 領域の活動をバランスよく構成(英語)マインドマップや ICT を活用し、思考のプロセスを見える化(家庭)	B		B	自己評価を尊重する。
	⑼評価改革	①観点別評価 ②ルーブリック評価	授業担当者で作成し、授業で活用している(国語)重視している評価ポイントを明示について検討を重ねる(地歴公民)少しずつ定期考査に観点別の点数欄を設けるよう作問(数学) (数学) 到	B		B	自己評価を尊重する。

			達目標と振り返りの差異を確認(理科)パフォーマンステストにおけるルーブリックの提示(外国語)評価基準の改善を継続(家庭)				
	⑽テスト改革	①論理的思考力・判断力 ②社会とのつながりを問う問題 ③市商質問改革	教科会で共有・振り返りを実施(国語・地歴公民・理科)論述解答への適切なフォローを振り返りの時間で実施(地歴公民)思考過程を明らかにする問題を出題している(数学) ライティングのリライト活動(外国語)論述形式の解答にはアドバイスを書き込む、３学期も継続(商業)	B		B	自己評価を尊重する。
	⑾部活動改革	①全国的レベルの部活動・生徒会活動 ②指導改善 ②私生活から一流	①情報処理・珠算電卓・まんが甲子園…全国大会出場(情マ)映像で一流を見せる(スポ) PTA 便りを発行、教育活動の成果を発信(総務) ②部活動と連携、主任等確認して指導(1 年)身体構成や人体の健康、スポーツ栄養学に関連する内容を生物基礎・生物・スポ科化学基礎において実施(理科)ルールを明確にさせる(スポ)	B		A	文化部の成果が上がっている。
4. 学びに向かう力（主体的な学び）の育成	⑴高知や社会に貢献する力を育成する指導	①授業における学びを高知の課題と結び付けて理解できる力の育成 ②授業における学びをグローバルな視点を持って、社会や地域の活性化を考え企画できる共創力の育成 ③積極的に企業・大学・行政・地域の方々と連携・協働し行動できる力の育成	オリエンテーション・進路ＬＨ・授業で実施（全学年・科・コース・各教科）修学旅行の企業研修の実施（ライ）沢渡茶畑の運営・パニャニャン弁当の開発、第一回高知商業グローカルフェスの開催（特活）進路講演会、国公立講座で出前講座等実施（進路）	A		A	地元の新聞、テレビ、ラジオ等を通して日々の活動が良くわかり、高知県をアピールしようという思いが伝わる。
	⑵高いレベルの進路を目指す生徒を育成する指導	①国公立大学受験者合格者を増やす指導 ②共通テスト対策指導 ③動機づけ（講演会・オリエンテーション等） ④面接・文書作成指導の改革（コンピテンシー面接やオリジナル文書作成指導の実施） ⑤卒業生や外部指導者 による指導 ⑥縦割り学習の実施	オリエンテーション・進路講演会・国公立講座・進路ＬＨ等において実施。進路指導部との連携（全学年・科・コース）授業において実施(スポマ・各教科)進路検討会を計画的に実施(特進)面接・志望理由書等の統一見解を教職員に提示（進路部）ＰＴＡ中四国大会への参加（総務部）進路関係等の新聞記事ピックアップ（図書）	A		A	早い段階で進路を考えるような働きかけが多く、結果として表れている。
	⑶高いレベルの資格検定を目指す生徒を育成する指導	①日商簿記２級１７名以上 ②基本情報・ＩＴパスポート３名以上 ③実用英検２級３０名以上	商業科・外国語科との情報共有等連携実施（２年・特進・ﾗｲｾﾝｽ）高知大学への留学生との交流への取組(社マネ)進路ＬＨの活用(３年) 検定に向けた動機付けを継続指導（英語）科目長を中心に検討会を実施し授業に活かす（商業）	B		A	検定に向けた学校全体としての取り組みができている。
	⑷特進(東大合格)ライ(日商簿記１級)社マネ(日英検１級)情マネ(STEAM)スポマ(アスリート集団)実現のための取り組み	①新しい教育方法の実践 ②地域・社会とつながる教育実践	進路講演会等を実施(特進)講演の際、簿記の得意な生徒に連携事業への参加を呼びかけた(ライ)基本情報技術者取得を到達点として指導を継続(情マ)科で統一した指導ができている(スポ)計算力強化を概ねできた(数学)難関大学課題等授業に適宜導入(理科)英語ニュ	B		B	昨年に続き日商簿記検定１級合格者がでた。

			ース等を活用して社会問題を考える(外国語)科目長を中心に検討会を実施、授業に活かす(商業)				
	⑸行事・講演会・報告会等の質的向上をめざす指導	①積極的な企業・大学・行政との連携 ②市商マネジメントの視点を持った生徒の主体的な参加による運営 ③各種オリエンテーションの質的向上	講演会の運営を生徒に委ねた(ライ・1年)行事終了時にルーブリックを活用した振り返りを２学期に計画し、実施する(社会)市商マネジメント力を取り入れた挨拶の実施(特活)	B		B	自己評価を尊重する。
	⑹文化活動を活性化させる指導の充実	①文化部・授業での積極的な各種大会の参加やｺﾝｸｰﾙへの応募 ②文化活動・各種大会応募実績４０種目以上	エッセイコンテストを夏休みの課題として取り組む(社会) 年３回以上応募する、授業で実施(情マ)進路ＬＨを活用し啓発(3年)授業で取り上げ､教科長から Classi で配信(理科)PTA 便り発行、教育活動の成果を発信(総務)ﾋﾞﾌﾞﾘｵﾊﾞﾄﾙ参加(図書)	B		A	生徒会執行部、コミックアート部、ジビエ部等本当によく頑張っている。
	⑺ポートフォリオ化させるための指導と評価	①主体的な整理・蓄積への指導 ②定期的な振り返りによる学習意欲を向上させる指導	学年末ＬＨに計画(1 年)進路ＬＨで指導(3 年)コース会でホーム主任と保管文書の確認(ライ)各担当で指導(スポ)保管方法等について研究が必要(特活)相談室登校時において日々の取組を日誌に記録(教育相談)ロイロノートで提出、ファイルの活用(地歴公民)ポートフォリオについて説明し指導（外国語・家庭・商業)	B		B	ロイロノートを有効に活用できている。
5.各部署組織運営計画	⑴各部署の組織運営･組織活動の活性化	①計画的かつ主体的な組織運営・組織活動の実施 ②明確な役割分担と責任体制の確立 ③報連相の徹底 ④情報の共有化	①～④それぞれの教育活動ならびに部署活動において、コロナ禍でできなかった取組を実施可能の形で取り組んだことにより、成果も課題もより鮮明になったと考える。この鮮明になった事柄を、各部署で次年度にいかしてほしい。	B		B	自己評価を尊重する
6・重点学校組織運営計画	⑴情報管理(組織文化)	①市商ブランド化戦略を推進する ⇒ あらゆる広報にこれを位置づけ、掲示物やオリエンテーション・集会等による積極的な情報発信を行い､ロゴや 標語を最大限に活用する ②キャリアパスポートの体系的な運用を実施する ③Classi,GoogleWorkspace の全校的運用を一層促進し、諸会議におけるﾍﾟｰﾊﾟﾚｽ化とテスト採点の電子化をを推進し、節電と合わせ経費削減を図る ④積極的な広報活動を組織的に行う	①市商マネジメント力と関連させて文部科学省公募事業を推進し、情報マネジメント科３年生の取組がマスコミにも取り上げられた。 ②M-book を活用したキャリアパスポートの活用を次年度もすすめる。 ③Classroom､すぐーるの運用開始にむけ、情報班を中心に取り組んでいる。 ④積極的な広報活動が課題である。広報活動発信までにいたる課題として、文章の量より画像優先でスピードアップを図る。	B		B	自己評価を尊重する
	⑵人材開発 （組織改革）	①授業実践ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ M 型 W 型 MW 型 Q 型の研究を深め、ICT の活用を促進する ②研究授業の質を向上させる ③自己課題研究を奨励し、専門分野の研究やスタッフ組織による授業研究など、教員の個別最適化を促進する。 ④国公立講座の質的向上（オリジナルテキストの作成、INPUT 指導の重要性等）を図り、共通テ	①②ICT の活用は定着。研究テーマ『生徒が個の学びを深め、能動的に思考・判断・表現できる教員の「指導言」を目指して』のもと、生徒の能動性を高める指導言・発問に取り組んでいる。 ③各種の自主企画研修が、夏期休業中等に実施された。 ④進路部によるオリジナルテキストを活用した国公立講座を実施した。41 名国公立合格。	B		B	自己評価を尊重する

		スト研究体制を再構築する ⑤初任者・年次・期限付・時間講師等の指導力向上 ⑥職員のタブレットの活用力・活用率の向上を図る	⑤初任研の授業研・一般研修を計画的に実施できた。 ⑤タブレットを活用した授業が定着してきた。ロイロノートは必須アプリとして授業アンケートや教材提示等で活用されている。次年度はGoogleWorkspace の活用をすすめる。				
6・重点学校組織運営計画	(3)改善力のある組織体制	①危機管理３大原則を徹底する ❶不登校・いじめ等に関する情報収集 ❷報連相の徹底 ❸適切な初期対応 ②生徒の範となる挨拶で、朝は元気と希望の湧く職朝を実施、楽しく仕事のできる環境整備を行う ③ワークライフバランスを目指して「働き方改革市商八策」を推進する ④情報班を中心に、市商版 GIGA スクール・DX 構想を作成し実現する ⑤会議は定刻に始める ⑥カリマネ委員会のメンバーをスクールリーダーとして、創造的・未来志向的マネジメントを実現する	①適切な初期対応について具体的に提示する必要がある。危機管理の徹底について、計画的に管理職から発信する。教務手帳管理簿を作成し、３学期から実施した。 ②先に声をかける挨拶を実施。楽しく仕事のできる環境については、継続して研究。 ③「働き方改革八策」を示し、超過勤務時間 80 時間以上０人を目指す。20 時完全退校を目指す。 ④機器の設定・破損等の対応が危惧されたが大過なく対応できている。 ⑤概ね、定刻に会議を開始できた。 ⑥次年度の PDCA の作成を簡略化し、各部署独自の計画やそのための話し合いの時間を確保するようにつとめた。	B		B	自己評価を尊重する
7・安全・防災教育	(1)交通安全指導の充実	①自転車安全指導の徹底 ②旭校区の諸団体との連携	①秋の全国交通安全指導の実施。市内巡回指導の実施 ②毎月１回旭校区街頭指導の実施	B		B	自転車の無灯火、並列走行が課題である。
	(2)防災教育の充実	①系統的な年間計画の策定と実施 ②地域と連携した避難訓練の計画と実施	①危機管理マニュアルの見直しに併せて策定する。弾道ミサイル発射等の避難訓練を追記 ②避難所としての運営を地域住民の方々と連携した訓練を実施	B		B	まだまだ考えられるシナリオを考えつくしているとはいえない。
8・総合評価	(1)高知や社会に貢献し、進学にも就職にも強い元気のある商業高校	①体験入学参加者および受験者の増加 ②進路決定１００％実現 ③県内進学就職率の向上 ④学校が同じ方向を向くためのＰＤＣＡサイクルの実現	①体験入学参加者も昨年度を越えた。９連続志願者数１位、57 校の中学校に高校説明会を実施。 ②100%に近い成果を得た。 ③県内就職希望者が 100%に近い成果を得た。 ④PDCA 表に改善内容が具体的に書き込めるようになるよう書式を変更。	B		A	生徒と共に教員も試行錯誤し、努力していることが伝わる。２月 17 日時点で９年連続志願者１位となった。